

〈公園の春〉



〈ミツバツチグリ?〉

4日ぶりに相模原公園を散歩した。今日は20度を超える暖かさで、桜はもう満開。山道を歩くと黄色い花が目についた。へびイチゴ、ミツバツチグリ、キジムシロ、似たような花で見分けがつかない。家に帰って調べてみると花の形や葉の形、付き方でどうやらミツバツチグリのようだ（が自信はない）。まだまだ見る目が育ってないようだ。ヒオドシチョウはなんとか分かるようになった。翅を開いた時の緋色は飛んでいても良く目立つ。



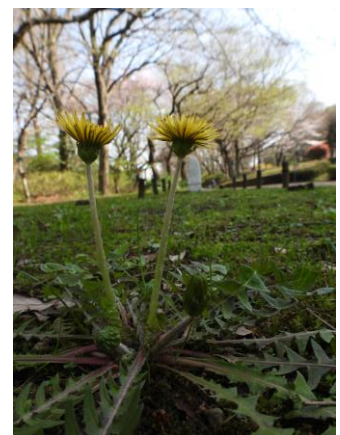
〈ヒオドシチョウ〉



〈カラスノエンドウ〉



〈mamshigusa〉



林床の奥の方に目をやると、mamshigusaが出ていた。スッと立っているので遠くからでも分かる。mamshiの次はアオダイショウだ。枯れ枝の中にいたので分からなかったが、たまたま立ち止まった際に目の前にいるのに気づいた。小鳥でも飲み込んだのだろうか、あるいはカエル？ お腹が膨らんでいた。タンポポもあちこちに咲いていたが、梅の木の日影になっている場所に、ひっそりと寄り添うようにカントウタンポポが咲いていた。日向はセイヨウタンポポに占領されている。生きる場所はもうここしかないようだ。テントウムシもせかせかと動き回っている。“男子三日会わざれば刮目して見よ”という言葉があるが、子どもの成長の速さ以上に自然界の変化は著しい。しっかり目を見開いて注意を払っていないと、あっという間に変わってしまう。季節は確実に動いているのだ。次の世代に引き継ぐべく。

